

“何苦礎・・・”

“何苦礎（なにくそ）”について始業式で話をしました。これは、「人生における様々な苦労や困難は、その後の成功や成長のための大切な土台（礎）となる」という考え方を表しています。つまり、苦しいときこそ、それが自分を強くし、未来を切り開くための力になるという強い意志や前向きな精神を表す言葉なのです。この言葉（漢字）、昔からあったかというところではなく、元プロ野球選手でメジャーリーガーとしても活躍した田口壮選手が作った造語だそうです。田口選手は、プロ入りやメジャー挑戦時に多くの苦労を経験し、その都度“なにくそ！”という気持ちで困難を乗り越えてきました。その精神を漢字で表現するために、「何事も苦しむことが礎になる」という思いを込めて“何苦礎”という言葉を生み出したそうです。“何苦礎”は、よく反骨精神の言葉と思われがちですが、本来の意味はそうではなく、その背景に「苦労こそが成長の糧」であるという意味が込められた強い言葉なのです。自分が若い頃、先輩方に「若いうちの苦労は買ってでもしろ」とよく言われました。この言葉と“何苦礎”、似ているように思われますが、実は大きな違いがあります。確かに、苦労をすることは大切という点では同じですが、「若いうちの苦労は買ってでもしろ」は、他人（自分より年配の人）から言われることでいわゆる教訓的（アドバイスの）なものです。しかし、“何苦礎”は、自分自身に向けた言葉で「この苦労が自分の土台になる」という苦労を乗り越えるための自身の心の叫びなのです。

皆さんは、目標に向かって進むとき、頑張っているのに結果が出ないなど、思うように行かないときに“何苦礎”と言う気持ちを持ってやれていますか、あきらめてしまっている人はいませんか。うまくいかないときは、誰でも苦しいのです。そして、それは誰にでも必ずあります。あの世界の太谷選手でさえ、そういうときがあります。そして有名な人ほど、うまくいっていないときに周りからは心ない言葉を浴びせられます。でも、太谷選手のように世界で活躍できるような人は、そういう周りの心ない言葉（雑音）を気にすることなく、自分のやるべきことを確実にやり、しっかり結果を出すのです。苦労なしに大成した人はいません。見えないところで必ず苦労し、それを乗り越えているのです。今の時代、困難にぶつかるにあきらめる人が多いと言われています。しかし、皆さんには、あきらめるのではなく“何苦礎”と言う気持ちで困難を乗り越える人になってほしいと思います。来週からは課題テストがあります。1、2年生は、まもなく部活動の新人戦も始まります。3年生は、4、5ヶ月後には入試があります。是非、“何苦礎”と言う気持ちを持って取り組んでほしいと思います。“何苦礎”は、勉強や部活動だけでなくいろいろな場面で使える考え方です。自分も皆さんに負けないようにまだまだ“何苦礎”と言う気持ちを忘れずに生活したいと思っています。人はいくつになっても学びがあり、成長ができますから。皆さんの“何苦礎”という姿勢たくさん見たいと思っています。期待しています。